

第3回審議会の会議録

日 時： 令和5年10月26日（木）午後1時30分～2時50分

会 場： 京田辺市庁舎 議会全員協議会室

出席者： (委員)谷口会長、野田副会長、米田委員、青木委員、塩谷委員、松本委員、川嶋委員、山際委員、坂本委員、岡崎委員、鈴木委員、寺西委員、渋谷委員、畠山委員、高橋委員、井上委員、村田委員、眞部委員、箱田委員、和田委員、大崎委員、梅澤委員

(本市)池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、建設部長、都市整備政策監、市民部長、こども政策監、(教育部長代理)教育部副部長、教育指導監、危機管理監、消防長、経済環境部長、健康福祉部長、総務部副部長、上下水道部副部長、栢木係長、藤原主事

1 開 会

事 務 局：本日は、3名の委員が所用のため欠席している。審議会委員24名中21名が出席しており、審議会規則の規定を満たしているため、本会議は成立していることを報告する。

2 会長あいさつ

会 長：本日は第3回審議会ということで、今回は4年間の京田辺市が重点的に取り組んでいく重点プロジェクト及び分野別計画の素案についての審議となる。今回の審議内容に基づいて今後さらに磨かれた計画になっていく。皆様の忌憚のないご意見をいただき、活発な審議をお願いしたい。

3 議事

(1) 第4次総合計画「中期まちづくりプラン」重点プロジェクト(素案)及び分野別計画(素案)について

事 務 局：資料1「第4次総合計画「中期まちづくりプラン」重点プロジェクト(素案)」
資料2「第4次総合計画「中期まちづくりプラン」分野別計画(素案)」
資料3「第4次総合計画「中期まちづくりプラン」の構成」
について説明

【質疑】

委 員：重点プロジェクト「次の世代を育てるこどもまんなかのまちづくり」に生涯学習全般からのアプローチがない。例えば放課後プランは積極的に取り組まないといけないのにない。また、資料2分野別計画で、社会教育の説明がなかった。

- 事務局：新たに実施する事業を中心に説明したので、前期まちづくりプランから継続しているものについては説明を割愛した。社会教育分野については、前期と同様の事業だが、内容については時点修正している。
- 委員：「こどもまんなか社会の実現」の中に、生涯学習の面からのアプローチが抜けているのはおかしいのではないかと思う。
- 事務局：いただいたご意見について、再度、庁内で検討を進め、次回の審議会でお答えしたい。
- 委員：放課後プランは、社会教育ではなく教育分野にそれ自体が入っていないということか。社会教育は生涯にわたっての学びの話なので、今言われた放課後プランは、そういう意見か。
- 委員：社会教育の分野からのアプローチも必要だし、学校教育からのアプローチも必要、両方からのアプローチが必要という意見。
- 委員：資料1重点プロジェクトの3ページに記載されている目的・ねらいの3つ目、「発達段階や個人に応じた確かな学力の育成などによる質の高い教育の実現と、安全で安心な教育環境づくりに努めます」に対応する事業メニューは、全てが教育環境づくりに思える。「質の高い教育」は、具体的に京田辺の教育で何をしたいのか、その特徴を知りたいが、わからない。ここに載せる必要がないなら仕方ないが、質の高い教育はどんな教育をするのか。それはほかにどこかに出ているのか。
- 事務局：方向性は京田辺市の教育大綱にも位置付けられており、それに基づき現在教育振興基本計画の策定を進めている。ご指摘のとおり、目的・ねらいに記載があるのに、それに対応する事業がないという状態はおかしいので、対応する部分が見えるように記載をしたい。
- 委員：資料2の55ページ、学研都市建設等促進事業について、京田辺市が率先して何かすることはあるのか。
- 事務局：学研都市建設等促進事業では南田辺西地区について記載している。このほか、けいはんなプラザが学研都市の中核施設として位置付けられており、そこでの催しに参加いただけるよう、市も周知をしている。南田辺西地区のフードテックは、現在京都府が開発に向けて事業を進めている。優良な企業集積が図れる場所なので、本市も連携して企業誘致、まちづくりに積極的に関わっていきたい。本日、京都府への要望活動も実施してきたところ。
- 委員：フードテックは、大手ばかりではなく、京田辺市内の事業者も参加できるような形にしてほしい。
- 委員：分野別計画18ページに、動物適正飼養啓発推進・狂犬病予防事業とあるが、むしろ猫の対策について各地区で困っている。京田辺市だけでは難しいので、

京都府と連携するなりして、何か踏み込んだ内容の項目にしてもらえないか。
事務局：猫の避妊手術をする団体への補助事業を、現在担当課で検討している。記載については、庁内で検討したい。

委員：資料1重点プロジェクトの2ページと資料3中期まちづくりプランの構成を見ると、「持続可能で魅力ある都市づくり」で、安全安心、緑、田園都市に○があるが、ここに健康がない。健康とは関係ないのか。資料3は重点プロジェクトの1・2・3・4は全部、縦の矢印は貫通しているので、全部関係があるという意味の図になっている。そうすると、2ページの表はすべてに丸になるのではないか。ここに○をする、しないは難しいと思うが、資料3は、すべて矢印で関係がある図としているのでお尋ねしたい。

事務局：資料3は、全ての分野が何らかの重点プロジェクトに関連しているということを示している。構成としては、実際に取組む施策をまとめた分野別計画があり、その中で特にこの4年間で重点的に取組むものを重点プロジェクトとして打ち出している。各分野に網羅的に取組むのであれば重点プロジェクトは不要になってしまう。構成としてはそのようになっているとご理解いただきたい。

委員：その違いがわかるように説明できたらよいと思う。

会長：少し工夫して、資料1と資料3の整合性が取れるようにしてもらいたい。

委員：資料1の4ページ下の「教育内容の充実」で、「地元の食材を活用した安全・安心な学校給食の実施と食育の推進」とあり、これは地産地消のことだが、これが資料2の64ページの「3幅広い食育・地産地消の推進」にかかると思う。地産地消は、京田辺の緑の構成要素である農業の収益性を高めるために非常に有効な手段なので、推進してほしい。

もう一つ、資料1の10ページに「ゼロカーボンシティ実現に向けた取組みの推進や機運の醸成」とあるが、先日も西村経産大臣がCO₂削減の推進に言及していた。農業者が事業に取組みながらCO₂削減に貢献してお金をもらえる仕組みができつつあると聞いているが、京田辺市としてはどうなっているか。

事務局：地産地消の推進について、直売所などは引き続き推進していきたい。紹介のあった農業のゼロカーボン取組の補助金は制度としてまだ固まっていないと思われるが、国・府から情報があれば、活用できるよう紹介していきたいと思う。

委員：今回の中期まちづくりプランは市長の公約の「住み続けたいまちづくり」に沿ったものだと思うが、「魅力あるまち」、「住み続けたいまち」には様々な考え方がある。都市基盤の整備によるまちづくりはもちろん大事だが、ソフト面での文化振興や「ふるさと京田辺」に愛着を持ってもらう施策、京田辺に生まれ育つ中で地元への愛着を育む取組みがないように感じる。例えば、団体へ補助金をつけて任せるといった形でもよいが、田辺音頭や天理山古墳等の遺跡・史

跡・文化遺産を全市的に広げていくような取組みはどうか。ソフト面での魅力アップ、都市格を高める記載はあったが、あまり重点的ではない感じがする。その点はどのような方針なのか。

事務局：一人ひとりの地元への愛着が必要不可欠だと思っている。市民まつり以外にも子ども向けイベント等の取組みを進めたい。天理山古墳は整備事業を掲載しているが、それで完結するものではない。周辺には、一休寺、甘南備山、今後予定している田辺北新市街地の複合型文化施設などがあるので、それらをうまく活用したまちづくりの検討を庁内で進めているところ。

委員：自治会活動は非常に大事だが、どこも自治会の加入者が減少傾向にあるようだ。新規加入者や脱退者が多くなっている実情がある。どうしたら良いかの答えが出てこない中で、重点プロジェクトで自治会活動の活性化を打ち出すべきではないか。何か具体的な案が出せないか。

事務局：分野別計画69ページ、市民参画、協働の推進、地域コミュニティの活性化になるが、市民協働推進事業では区自治会支援も含んでいる。区自治会加入率が下がっていることは市としても認識しており、「区自治会加入の勧め」という冊子も作っている。役員の負担が大きいという課題も聞いているが、単独の自治会だけでは進まないで、まちづくり協議会や複数の自治会が集まって共通の課題の解決へ取組む協議会の設置を支援している。行政としても自治会はコミュニティの基盤だと思っているので、引き続き加入促進に努めていきたい。

委員：資料2の55ページ市街地整備で、田辺北地区新市街地整備促進事業とあるが、前期には田辺中央北地区として記載があった。事業概要はほぼ同じ表現だと思う。今は事業の準備段階だと思うが、今の進み具合、課題、見通しを教えてほしい。また、「無電柱化の検討」と記述があり、実現に向かって進んでいるのかと思うが、無電柱化は電力会社等との関係もあり難しい所もあると思う。その点の実現に向けた見通しも教えてほしい。

事務局：田辺北地区の市街地整備について、以前は「中央」がついていたが、本組合の名称が「田辺北地区」で決まったので事業名も「田辺北地区」に統一した。明日、当地区が市街化区域に告示され、事業の確実性が持てる前提で市街化区域へ編入される。同意率も100%に近い状況で、来年1月に組合を設立し、夏には事業認可、令和9年頃の造成工事完了の見込みで現実的に動き出す状況にある。

無電柱化については、新市街地に16mの都市計画道路を決定するが、新設道路なので無電柱化を進める。電力通信会社との調整も難しく、技術的検討も必要だが、田辺地区の既成市街地にある幹線道路も将来的には無電柱化できないか引き続き検討することとしている。昨今の無電柱化の流れに沿って、本市でもできるところはやっていく形で進めている。

委員：重点プロジェクトで「こどもまんなか」、「つながりと安心」、「魅力ある都市づくり」とキーワードが出ているが、中小企業のことあまり書いていない。コロナ前の売り上げに戻っていない企業や、資金繰りが大変な企業もある。我々もできる限りのことをしているが、そういう中小企業に対する京田辺市としての支援がもりこまれていない感じがする。

事務局：商工業については分野別計画に「担い手確保」や「商工業の活性化」などを記載している。本市はこれまでから中小企業支援、とりわけ金融支援については力を入れてきた。コロナで国が無担保無利子融資を実施したが、本市はその前から手厚い利子補給を実施している。また、市内の中小企業について、後継者不足や人手確保の課題は直接聞いているが、商工会や田辺高校との連携による将来的な従業員の確保を数年前から力を入れてやっている。今後大学生も対象として拡充する予定。重点プロジェクトにこの部分は入っていないが、まず分野別計画に載せるかを担当課と調整する。

委員：資料2でどこに該当するのか。

事務局：分野別計画65ページの「5 商工業の担い手の支援・育成と経営支援の強化」になる。

委員：子どもイベントで、商工会の方とコラボして子どもが働くようなことが出来ればと考えているのだが、商店との橋渡しを市へお願いできないか。7月のワークショップでも、たなフェスのようなイベントの場で、お仕事体験のような形で子どもたちと街のお店のコラボ企画をできないかという話が出ていた。そういうことをどう進めて行けばよいのか、市へ相談するにしてもその窓口がわからない。

委員：今まではしていないが、商工会で検討したい。市内の中学生が地元の企業に行って働く体験学習はしているが、小学生、子どもはやっていないので、商工会としても検討したい。

事務局：産業振興課、子育て支援課もあるが、企画調整室でも相談していただいたら対応していきたい。近く大規模小売店舗で同様のイベントがあると聞いている。また、対象年齢が違うかもしれないが、「まちゼミ」というものを商工会でされている。

委員：商工会に来ていただいたら、協力したい。

委員：小学生の年代だと、地元での思い出になり、店や街との関わりが強まる。なるべく小さいうちの方が効果は大きいと思うので、簡単なことでも何か関われば、地元の店のことが、深く刻まれるのではないかと思う。

委員：小学生・幼稚園の間、農業体験など体験学習に取り組んでいる。薪小学校では稲刈りをした。苗を植えて稲刈りまで全部手作りでやった。我々の年代では稲から粳をはずして粳すりをした経験があるが、それを手作業でして、お米がど

のようにしてできるのかを体験した。そういう経験をすることも大事ではないか。

事務局：農業体験は薪小だけでなく、他校でも、また保育所や幼稚園でも実施している。

委員：市の発展と持続可能な社会の形成において、市街地、特に駅前の整備が重要だと思う。新田辺駅東地区は、スーパーの撤退もあり、寂れた雰囲気には拍車がかかった印象も受ける。何か計画が動いているのか教えてほしい。田辺北地区についても、市の施設の建築、住宅、店舗は何割とか、お話しできることがあればお願いしたい。

事務局：新田辺駅、京田辺駅周辺のまちづくりについて、今は新市街地の田辺北地区に注目が移りがちだが、新田辺駅の東側も進めていく。現在はスーパーの跡地が決まらない状況で、既存の地権者との話し合いも必要であり、停滞している。新たな権利者が決まれば、市としても声掛けする。身の丈に合った整備を模索している状況。

北地区のゾーニングの話は、複合型公共施設を核として商業系施設を位置付けている。住居系エリアは4分の1以下で、ほとんどが商業系と考えている。組合ができてから、企業を誘致しながら事業を進めていきたいと思っている。空き地のままで土地利用が進まないということにはならないように、市としてもしっかりと誘致をしていきたい。

会長：貴重なご意見をたくさんいただいた。ご意見に基づいて、次の審議会に向けて、市の方で計画をブラッシュアップしていただきたい。次の審議会では、パブリックコメントを実施するための検討になる。将来の京田辺へとつながる計画になるので、引き続きご協力をお願いしたい。

閉 会